

「真砂地区学校適正配置地元代表協議会（仮称）の設立会議及び第1回協議会」 議事要旨

1 日時・場所・参加者

(1) 日時 12月26日(水)16時～18時

(2) 場所 美浜区役所3階会議室

(3) 参加者

ア 協議会委員(別紙「資料2」)

イ 教育委員会 大野総務部長、山崎企画課長、山下主幹、加茂主査、伊藤主査補

ウ 傍聴者 4名

2 承認及び協議された事項

(1) 真砂地区学校適正配置地元代表協議会（仮称）の設立会議について

第31地区町内自治会連絡協議会佐藤会長より、協議会設立の趣旨等及び協議会委員についての説明があり、協議会設立を承認した。(別紙「資料1」、「資料2」のとおり)

(2) 第1回真砂地区学校適正配置地元代表協議会（仮称）について

本会議の会長には、第31地区町内自治会連絡協議会会長の佐藤明氏、副会長には、真砂第一中学校区青少年育成委員会会長の安井要子氏と、真砂第二中学校区青少年育成委員会会長の森本希久江氏を選出した。

議長には、森本希久江氏を選出した。

次のことについて、協議及び質疑応答を行い、承認した。

ア 会の名称は、「真砂地区学校適正配置地元代表協議会」(以下、協議会)とすること。

イ 学校適正配置の概要と真砂地区の学校の状況についての説明と質疑応答。(質疑応答の内容は「3の(1)」を参照)

ウ 今後の進め方。(協議の内容は「3の(2)」を参照)

・協議会は2ヶ月に1回くらいの割合で開催すること

・次回は真砂地区の適正配置の方向性に関する課題を洗い出していくこと

・次回は平成20年2月13日(水)午後4時より、美浜区役所3階会議室で行うこと

次の提案について、承認した。

議事要旨については各委員の確認後、教育委員会のホームページで公開すること

委員変更や協議会欠席の場合には、事務局である教育委員会企画課に連絡すること

次回の協議に必要な資料がある時には、2月5日までに事務局に連絡すること

3 質疑応答及び協議 (敬称略)

(1) 【学校適正配置の概要と真砂地区の学校の状況についての質疑応答】 回答は企画課

久保田 適正とはどのような観点で決めているのか。適正にするメリットは何か。

高橋 学級数はわかるが、1学級あたりの子どもたちの数はどうなるのか。

回答 12学級以上というのは国の基準でもある。子どもたちの教育環境上、また学校を運営する上でやりやすい規模である。1学級あたりの定員については、小学校1、2年生と中学校1年生は最大38人、その他の学年は40人である。

高橋 中学校1年生はどうして38人なのか。

回答 中学校へ進学したばかりなので、精神的な不安を解消するためである。

北沢 (来年度より学区が変更すると聞いた)磯辺6丁目の児童生徒数は何名か。
回答 19年度は、小学生64名、中学生45名である。
北沢 (現在、真砂第5小、高洲第二中の学区である)真砂1丁目については、真砂地区に含めずに検討するのか。
回答 実施方針を策定するにあたっては、話し合いの枠組みを定める必要があった。規模を考え、それぞれの地区に2つの中学校区を含めている。
北沢 真砂1丁目も(真砂地区に)入れることも検討できるのか。
土屋敏秋 磯辺6丁目が真砂地区から抜けるのは、初めて聞いた。磯辺6丁目と真砂1丁目とを伴い、真砂1丁目を入れることは想定していなかったのか。
回答 中学校区をもとに実施方針を策定したため、当面はこの話し合いの枠組みで検討していただきたい。ただし、協議会の中で真砂1丁目を真砂地区に入れて検討する必要があるというのなら、それでもよい。いずれにしても、稲毛海岸・高洲地区の学校適正配置の説明会及び地元代表協議会が立ち上がった後に協議してはどうか。
土屋敏秋 (当面は)真砂1丁目をオブザーバーと呼ぶことも必要だろう。また、この協議会の中で(真砂1丁目を真砂地区に含めるという)意見が出たことを(他の会合で)話してもよいか。
回答 それは結構だ。
矢口 真砂地区の説明会でも、この意見は出ていたのに、この枠組みにしたのはなぜか。
回答 真砂1丁目全体の意向がまだつかめていない。今後、1丁目の方たちの意向を十分に聞きながら進めていく必要があるだろう。
(2)【今後の進め方についての協議】 回答は企画課
土屋敏秋 真砂1丁目の件が落ち着かないと、協議が進まないのではないかと。
回答 そのこと以外にも課題はたくさんある。それらの課題についてまず話し合っていくのはどうか。
阿部 真砂1丁目の件を踏まえて協議した方が効率がよいだろう。
土屋敏秋 (学校の統廃合には)確かに多くの課題があるので、そちらを検討することも必要だろう。
議長 次回までには、稲毛海岸・高洲地区の説明会も終わるので、その状況等についても事務局よりお知らせいただきたい。
久保田 市の方針がはっきりしないと前に進みにくいのではないかと。真砂1丁目については、(行政区分と学校区が違っている)ややこしくなっている。
土屋敏秋 磯辺6丁目の学区変更については、どのようないきさつだったのか。
回答 学区変更は、学区を変更してほしいという要望が、地元の方たちより「学区調整委員会」に提出され、検討を進めている。なお、子どもたちの急激な環境変化を緩和するために、学区変更に伴う弾力的な運用を適用する予定である。今回の学校適正配置についても学区を変更する必要があるれば、弾力的な運用の検討が必要だろう。
佐藤 磯辺6丁目については、(地元からの)再三の要望があり、検討を進めている。真砂1丁目についても、地元の方たちの要望をよく聞いて進めていきたい。委員の方たちも、情報を集めていただきたい。
土屋明子 (真砂第三小に通学している)磯辺6丁目の子供たちについては、(現在の在学生のうちの)9名が(来年度は)磯辺第二小に転校するようである。この件については、教育委員会と地元の方たちとが十分に話し合いを重ねて進めていると聞いている。

北沢 この協議会の目途はどれくらいと考えているのか。また、途中で委員が交代する場合も出てくると思うがいかがか。

回答 委員は、原則として（各団体の）会長にしていきたい。PTA・保護者会の代表については、代わりの方が出る可能性もあるが会長の推薦で出席していただきたい。もし委員が代わる場合には、引継ぎをしっかりと行ってほしい。

北沢 （統廃合の）実施はどれくらい先なのか。

回答 協議会はおおむね2年間を目途に行っていく。協議会で合意がなされれば、統合準備会を設置し、統合に向けての具体的な話し合いを進めていくことになる。また、子どもたちの交流活動も必要なので、時間をかけて進めていきたい。もちろん、合意が早くなされれば、早く統合できる可能性はある。

北沢 気の遠くなるような話だな。

土屋敏秋 この件に対して、教育委員会としての腹積もり（見通し）はあるのか。この協議会での議論は尊重されるのか。

北沢 （どのように統合し、どこに新設校を設置するか等の）具体的な計画は決まっていないのか。

土屋敏秋 初めから腹積もりがあるのなら、協議しても仕方がないと思うがいかがか。

回答 この協議会では、真砂地区の学校の適正な方向を検討し、統合の実施計画を教育委員会に提出していただく。したがって、協議会での議論は尊重していく。

黒川 保護者の意見として反対が多かった場合に、代表である自分が説得するのはたいへん難しい。

阿部 保護者は、まだ不安を持っている。特に小学生を持つ親は（統合の時期に子どもが在学している可能性があるので）不安である。反対意見が多くても（統廃合を）行うのか。

回答 「なぜ反対なのか」という理由をもとに、課題や問題点について話し合っていくことが必要である。課題や問題点について、十分議論を尽くしていきたい。

阿部 「少人数がよい」という意見は2～3割ある。今後それが増えていく可能性はある。

回答 現在の千葉市の1学級あたりの児童の平均は30人ほどである。また、1学級あたりの子どもたちの数が増えても、少人数指導等の充実により、そういった課題も解消できると考えている。